

# 大学出版

大学と社会を結ぶ 知のネットワーク

NO.85

2011.2

冬

特集

学術書販売を切り拓く

【インタビュー】

専門書こそが世界に通用する

——海外で本を売るといふこと—— 高橋雅人……………2

書籍流通の変化は何を語るか 星野渉……………9

人文書の現在、書店の未来 芝健太郎……………14

“出版営業+マーケティング思考”への途 土橋由明……………19

●連載

初版本、ナンセンスなフェティシズム

大川白雨著、青木數馬画 寫真小説『愛は輝く』 酒井道夫……………表2

大学出版部ニュース……………26



一般社団法人大学出版部協会

THE ASSOCIATION OF JAPANESE UNIVERSITY PRESSES

特  
集

学術書販売を切り拓く

【インタビュー】

## 専門書こそが世界に通用する——海外で本を売るといふこと

高橋雅人（すいれん舎）

### 台湾図書館市場への取り組み

——まずは経歴のご紹介をかねて、復刻版元の海外営業の初期の取り組みである台湾での話をお願いします。

二〇〇四年にすいれん舎を設立しました。年間約一〇点刊行して、バックリストは現在四〇点ほどです。四〇点といっても、分売不可のシリーズセットを一点とカウントしていますので、点数のわりに刊行金額は大きいのです。1セットの価格は二五万円という高額商品が中心です。

復刻というのは大学図書館などが所蔵している貴重な資料（たとえば占領期の新聞など）をリプリントして刊行する出版形態で、八〇年代半ばごろから柏書房などが取り組

み始めました。1セットあたりの単価が高額なため、ポイントで研究室や図書館を直接訪問して販売するのが主な営業活動です。

私は、すいれん舎を立ち上げる前は柏書房の営業部に勤務していました。初めて海外に本を販売したのも柏書房時です。

台湾訪問を始めたのは一九九〇年代の中ごろです。きっかけは、そのころからときどき、台湾から高額な書籍の注文が届き始めていたのです。そこで、次第に台湾市場を意識するようになり、台北に営業所を開いていた紀伊國屋書店と組んで直接研究者への訪問を始めたのが最初です。

国立中央研究院にある近代史研究所や歴史研究所などの研究機関、あるいは台湾大学などが主な営業先でした。ま

た、東京の大学から台湾の大学に留学された先生や、東京に留学してその後台湾に帰られた先生など、以前から顔見知りの先生にも会いに行ったりしました。いずれにせよ、紀伊國屋書店がすでに営業開拓をして二〇〇三〇の大学と取引を行っていたので、販売ルートは成立していたのです。そういう研究施設にカタログを持参して研究者やライブラリアンに選んでもらうのです。

### 北米市場とアジア学会

次に北米市場についてお聞かせください。

海外での営業の基本は大学図書館や研究機関を訪問してカタログから選んでいただくというものです。アメリカの場合もカタログを手にして全米の大学図書館を訪問して廻

るのですが、もう一つ北米市場における和書販売にとつてきわめて重要な販路に、アジア学会 (Association for Asian Studies) 年次総会での展示販売があります。アジア学会とは、北米を中心に世界中のアジア学の研究者やライブラリアン、約七〇〇〇名の会員によって組織されている学術研究団体です。

アジア学会の年次総会は、毎年春にアメリカの主要都市で開催され、学会員であるライブラリアンや研究者が一堂に会する場となります。その中心は日本学、中国学、韓国学ですが、その他にもベトナムやインドなど南アジア地域の研究も盛んです。日本学の研究者は中国学に次いで多く、ライブラリアンを含めて一〇〇〇人以上が参加すると言われています。

私が初めてアジア学会年次総会を訪れたのは二〇〇二年のワシントン会場でした。紀伊國屋書店がアメリカ営業所を開設した直後です。ここで、紀伊國屋書店のブースに柏書房の本を並べたところ驚くほど売れたのです。展示した

日本語が誕生したとき

## 万葉仮名でよむ『万葉集』

石川九楊  
四六判 定価2730円

政治思想と文学批評の交点から立ち上がる鮮烈な思考

## 帝国日本の闕

— 生と死のはざまに見る —

金 杭  
四六判 定価3360円

音楽と意味をめぐる展開される斬新な音楽史

## 狂気の西洋音楽史

— シュレーパー症例から聞かえてくるもの —

椎名亮輔  
四六判 定価4830円

自然はいったいだれのものなのか？

## コモンズの地球史

— グローバル化時代の共有論に向けて —

秋道智彌  
四六判 定価3360円

石油価格に翻弄されるロシア経済の実態

— 一橋大学経済研究叢書58 —

## ロシア経済の成長と構造

— 資源依存経済の新局面 —

久庭真彰  
A5判 定価5250円



岩波書店

東京・千代田・一ツ橋  
(定価は消費税5%込み)

<http://www.iwanami.co.jp/>

のは主に一セット一〇万から二〇万円の地図や資料などで  
す。一人のお客様が百万単位で買って行かれることもあつ  
て、初めてのアメリカで大きな販売実績を上げることがで  
きました。

これ以後、復刻版元数社が毎年春のアジア学会への参加  
に合わせて、米国内の主要な大学図書館にも訪問するよう  
になりました。

——アジア学会以外に北米の日本学研究者があつまる機  
関はありますか？

アジア学会はこのようにもつとも重要な団体ですが、そ  
の他にもいくつか大事な組織があります。

北米日本研究図書館資料調整協議会（NCC）という北  
米の図書館人の集まりがあります。日本語資料の蔵書を共  
同構築したり、日本研究司書教育を行ったりしている団体  
です。アメリカにはマルチボリュームとって、日本でい  
えば私大助成のような、数十万から数百万円程度の助成金  
が付く制度があります。それが図書館の資料購入費に充て  
られるのです。こういうときにもNCCの推薦が大きく左  
右をします。

もうひとつは議会図書館（LC：Library of Congress）  
です。図書館の書誌データ、日本でいえばMARCCのよう  
なものをこの議会図書館がつくっています。議会図書館に

は日本書籍を選書するライブラリアンが五人います。それ  
ぞれジャンルごとに担当が分かれていて、一人はサイエン  
ス部門、一人は法律部門、そのほかにも人文、社会科学や  
建築などの担当者がいます。全体を統括しているのはアメ  
リカ人ですが、実際に現場で選書するライブラリアンは日  
本人、日系人です。そういう人のところに日本出版貿易さ  
んや紀伊國屋書店さんにアポをとっていただいで行くので  
す。

——図書館への訪問の際はどのような営業ツールを用意  
されるのですか。

アメリカで和書の選書権限をもつライブラリアンの大部  
分が日本人、あるいは日系人です。したがって営業手法は  
国内の図書館営業と同じです。

営業ツールは基本的には日本の図書館に案内するときに  
作成する未購入リスト一覽や宣伝用パンフレットなどで  
す。特に今ではほとんどの図書館がインターネットで所蔵  
検索ができるようになってるので、できる限り所蔵チェ  
ックをして当該図書館の正確な未購入リストを作成しま  
す。そしてシリーズもので途中までしか購入していないも  
のや歯抜けの資料を最優先で案内するのです。中国の国家  
図書館でも日本語で「すいれん舎」と入力すると所蔵一覽  
が出てくるくらいになっています。紙のパンフレットにつ

いても、やっぱり直接持っていく事が重要です。特に中国はなかなか図書館まで情報が届かない、むこうに行つてみて初めて、情報がいきわたっていないことがわかりました。

## 韓国、中国へ

——台湾と北米はずいぶん販路を開拓されているようですが、韓国、中国はどうですか。

韓国は二〇一〇年に初めて行きました。韓国がアメリカや中国と異なるところは、和書市場が研究者向けでなく、むしろ一般庶民向けだということです。それがとてもショッピングでした。教保文庫では日本語の『窓際のトットちゃん』が今でも1店舗で年間一〇〇〇冊以上売れるということです。

それだけ日本語市場があるのに、すいれん舎への注文はまったく来ないのです。たとえばソウル大学の日本研究所では日本研究者が四〇人もいるとのこと。そこで八〇億ウォンもかけてトップレベルの日本研究を行っている。ただしそういうところにはわたしたちの書誌情報が届いていないのです。日本の書誌データは確かに届いているけども、やはりそれでは十分ではない。内容がわかるような紹介文がほしい、自分たちのフォーマットに合わせて情報を提供してもらえればとても選書しやすいい、と言われました。日本にとっても関心があつて日本語を読める層があるにもか

かわらず、きちんとした情報が、必要とするところに届いていない、そういうことを実感しました。

中国についてもまだ働きかけを始めたばかりです。復刻版元のグループが、二〇〇九年に北京ブックフェアの際に訪中して、合間に北京大学や国家図書館に営業するといふ、アメリカのとくと同じような形態の営業を行っています。

中国では、今までの省立大学が国立のような扱いに昇格して、それぞれに相当な補助金が出ているようです。予算があるけれども日本の書籍の情報が届いていないという大学がないように、今後取次さんとともに、いろいろ手立てを尽くして行きたいと思っています。

## トライシヨナルなものが世界に通用する

——海外営業を経験して学んだことはありますか？

すいれん舎としてアメリカに行き始めたとき『日本消費者問題基礎資料集』や『戦後日本住民運動資料集』などを持つていったのですけれど、これがまったく見向きもされなかった。というのも他の復刻版元の多くの出版物は戦前資料なのですが、すいれん舎の場合は主に戦後資料なのです。やはり戦後資料はニーズがないのかなとあきらめかけていたのですが、ところが今年、ポツポツとブースに来て「これを研究したいんだ」という話をする研究者がいて、ちよつと変わってきたなと思いました。つまり出版

社として彼らに新しい知の情報を与えて、それによって研究意欲を掻き立てることができないか。向こうが要求するものだけを持つていくことではない、こちらから逆に提案するという出版社の役割があるのではないか。そう思うようになりました。

それともうひとつ。すいれん舎の仕事に『日本女性差別事件資料集成』という裁判資料があります。女性差別関連の裁判を行った女性の原告に直接会って、裁判資料を借りて、編纂して出版したものです。だから、国会図書館や大学図書館にも保存していない貴重な資料集なのです。国内でも売れているのですが、今度アメリカに持って行って、何人かの研究者に「これはすごい」と言ってもらえました。アメリカはいろいろな資料を集めてアーカイビングをしている機関が充実しているけども、「日本では出版社がこういう仕事をするのか」と感心されたのです。このことが自分の仕事の自信にもつながりました。アメリカに行つて初めてそれが自覚できたのです。

この資料は中国でも好評でした。中国の研究者に紹介したところ「この資料で扱っている裁判を今中国で争っていますよ」「これは中国の女性達に役立ちますよ」と言われたのです。それは女性の定年差別裁判です。日本で三〇年、四〇年前に終わったような裁判がいま行われていて、この資料が参考になるというのです。

そういうことは海外で営業してみても初めて知りました。

もともと価値のある資料だと自信はあったのですが、私たちが思っている点とはまた別の側面から光が当てられて、その資料の価値を改めて認識するということがありました。

大学出版会の刊行物は、おそらくそういうものばかりだと思います。小さく閉じこもっていると固定観念に縛られて分からないかもしれないけど、外に出れば出るほど分かることもあるのです。

そういう経験を経て、いまでは、専門的なものほど世界に通用すると思っています。トラディショナルなものが実はインターナショナルなのです。だから、狭い領域の専門的な書籍と考えられているものほど世界中に必要としている人がいるのです。それはアメリカや中国、韓国に営業に出掛けてすぐ感じることです。

専門書について、いつもラーメン屋とかスイーツの店に例えるのですが、ラーメン業界の巨大企業の場合、インスタントラーメンやカップ麺のように薄利多売の商売が多いと思います。零細企業であつても行列が続くラーメン屋も結構あるわけです。不健全な立地で、値段も高いのに行列ができる店もある。それはやはり、お客がそれだけのものを期待しているのです。美味しいから行くのであつて、本物であれば食べに行く。それはケーキなどのスイーツも同じでしょう。専門書も同様に、本物の、本当にいいものを作れば、少しくらい値段が高くても並んで買ってくれるで

しよう。

その意味で、専門書出版社は本物を作り続ける必要があります。インスタントラーメンみたいなものではない、遠出して値が張っても食べたいぐらいのものを作り続けられれば、商売は成り立つと思っています。それが本物でなくなると、経営も怪しくなるのではないのでしょうか。

日本の本が外国で普及するためには、向こうには書誌情報を知らない人がたくさんいるわけですから、先ずは彼らに知ってもらえるような流通への働き掛けが必要です。ただ、さらにその先のことを言うと、多言語化や、あるいは最近話題のデジタル化にきちんと取り組むことによって、日本の出版がもっと活性化していくと思います。

専門的な本については、多言語化やデジタル化は将来必ず取り組むべきもので、それによって出版社が豊かなものになっていくと思うのです。考え方やビジネスモデルなども、そこからいろいろ出てくると思っています。

### 多言語化と電子化が学術専門出版社の課題である

——多言語化やデジタル化は、なかなか採算が合わない、商売にならないという意見もあります。

そうかもしれないし、まだどこまで追求できるかわからないけれども、日本の出版社が脱皮して、とりわけ学術書出版社が生き残って欧米のようにやっていくためには、一番の鍵だと思っています。

考えようによっては、いまできていないからチャンスもあるわけで、ワクワクもします。専門書に取り組みれば取り組むほど、多言語化とデジタル化は日本の出版社全体に欠けている課題だという思いが強くなっています。例えば外国の専門雑誌の大手出版社、ワイリー・ブラックウエルとかシュプリンガーとかエルゼビアなどは、要するに学術専門出版社ですよね。学術出版社が大きくなって、日本の大

### 沖縄写真家シリーズ 琉球烈像

#### 第5巻【第4回配本】 石川真生写真集 FENCES, OKINAWA

冷たい鉄条網に分断された島でときにふれあい、ときに対峙する人びとの、他の誰にも撮ることのできない(生)とく(性)を鮮やかに捉える121点(カラー14点)。

天野太郎解説 ◆5040円

#### 第2巻【第3回配本】 比嘉康雄写真集 情民

無名の肖像にその〈受視〉思想の核心を焼きつける「情民」、遺影のなかの夫と、それぞれの戦後を生きる残された妻の肖像が沖縄の戦禍を表象する「戦争未亡人」、ふたつの連作をはじめて集めた114点。

仲里効解説 ◆4725円

#### 第9巻【第2回配本】 東松照明写真集 camp OKINAWA

金平茂紀・倉石信乃解説  
◆5040円

#### 第4巻【第1回配本】 大城弘明写真集 地図にない村

仲里効解説 ◆3990円



未来社 〒112-0002  
東京都文京区小石川3-7-2  
tel 03-3814-5521  
http://www.miraisha.co.jp/  
★出版図書目録無料進呈いたします★  
※価格は税込



海外で営業活動するなかで、海外の顧客のニーズに合うかたちでコンテンツの提供をしているわけです。そういう姿勢や取り組みを私たちも学ぶ必要があると思います。

——最後に、すいれん舎の今後の課題についてお話しく  
ださい。

今年刊行した『環境総合年表』という資料の英語化の作業が編集委員の先生方を中心に進められています。版權をまるごと欧米の出版社に渡してしまえばおそらく簡単なのでしょうか、やはり日本の出版社から刊行したいのです。水俣病やイタイイタイ病など酷い公害を経験した日本ではかできない仕事ですから、日本の出版社としては、英語版を手掛けるのが義務のようなものだと思います。だからぜひ自分たちの手で完成させ、世界に向けて販売したい。そしてそれをやる時はきつとデジタル化も必須です。

日本的なもの、専門的なものほど、こうして多言語化とデジタル化が必要になってくるのではないかと考えています。そして出版物の専門性が高まれば高まるほど、世界中に読者がいるに違いない、そう思っているのです。

——どうもありがとうございました。

# 書籍流通の変化は何を語るか

星野 渉  
(文化通信社)

電子書籍、一色に覆われたように見える二〇一〇年だったが、リアルな書籍流通・販売の世界で、大きな転機が訪れた年でもあった。それは、新刊点数をはじめとした発行指標が軒並みマイナスに転じたことだ。市場の状態、取次の施策など、複合的な要因が考えられるが、全体として、需要と供給の調整が本格化したとみることができる。

九〇年代の後半から徐々に進行してきた、受け手を起点にした流通へのパラダイム変化が、ここに来て加速したようにもみえる。また、書店に広がったPOS網といったデジタル技術を利用した市場把握の方法が、この流れを促進していることも確かだ。

本特集は、「学術書販売を切り拓く」をテーマに企画されているが、現在進行している変化が、果たして学術書販売の可能性を拡大するの可否かは現時点ではわからない。ただ、我々が常に環境に適応して生きていく以外に方法を

持たない以上、出版社はこの変化の本質を見極めて、その変化に対応していくことが求められていることは確かであろう。

## 発行指標がマイナスに転ずる

全国出版協会出版科学研究所によると、二〇一〇年十一月の新刊点数は、前年同期比四・二%減の六万八七九五点、新刊発行部数は同四・四%減の三億三七一六万部、注文品も含めた出回り部数は同四・七%減の一億二二〇八万部と、いずれの指標も大きなマイナスになった。

これまで出版業界では、書籍の販売金額がマイナスを続けていても、新刊点数は増えるという状態が続いてきた。一点あたりの販売部数が減るなかで、出版社が売れ行きを維持するために点数を増やしているとか、もつと直接的に、翌月の入金確保するために新刊を「押し込んで」な

どともいわれてきた。いずれにしても、需要を大きく上回る量の出版物が市場に供給されてきたことは確かで、書籍の返品率は四〇%を超える水準が常態化してきた。

新刊点数の減少が返品率の減少に直接結びつくわけではないが、二〇一〇年は同期間で書籍返品率も金額で一・五%、部数で一・四%減少している。返品量はではなく、率が下がったということは、単に送品総量が減ったというだけではなくて、供給と需要のバランスが改善されたことを示している。そういう意味でも、これまでにみられなかった動きだと言える。

## 日販の施策

中でも、上半期の日本出版販売の業績をみると、書籍返品率は四・六%減（金額返品率）と、業界平均を大きく上回った。同社は二〇一〇年春から、返品率の低い図書館流通センター（TRC）との取引を開始しているが、それらを除いた書店ルートだけの返品率でも三・五%減。日販では、これだけの返品率減少は、過去に例がないとしている。しかも、書籍・雑誌の売り上げ金額は前年同期比で〇・三%減の微減にとどまっている。

同社の返品率が大きく減少した背景には、昨年の春から実施している「送品コントロール」がある。出版社からは総量規制と呼ばれる新刊委託送品の絞り込みだ。しかし、実施された施策を見る限り、総量規制がイメージさせるも

のとは、ずいぶんとニュアンスが違うようだ。

かつて、出版販売額が前年割れになった一九九七頃から、急激に高まった返品を削減するため、取次各社は本当の意味で総量規制を実施した。この時は、仕入れ量、送品量を全体的に削減したことで、返品量は確かに減少したと言われたが、返品率は低下しなかった。需要を踏まえた対策とはいえなかったのである。

ところが今回の「送品コントロール」は、当時とは違った要素がいくつもある。一つは、前年から同社が約二〇〇〇の取引書店と実施していた「仕入在庫管理」という取り組みである。

これは、書店毎に、毎月の仕入金額、在庫金額の適正水準を設定し、日販からデータを提供しながら日々管理するというものだ。これまであまり書店業界では行われてこなかった仕入と在庫の予算管理を行ったのだ。この結果、店頭で必要な量に対して、実際の送品量が過剰になっており、それを調整するために、書店側でコントロールできない新刊委託送品について、日販が過去実績に基づいた「送品コントロール」を実施したという。

もう一つは、同社が二〇〇〇年から一〇年間にわたって取り組んできた「トリプルウィン・プロジェクト」(www)と、その延長線上にある新しい契約体系（パートナーズ契約）がある。

パートナーズ契約は、返品率の増減によって、書店にイ

ンセンチブが支払われたり、逆に返品率が高くなると書店がペナルティーを取られたりする契約だ。

これまで書店にとって「返品」は、当然行うべき業務であり、何ら悪いことではなかった。「書店人は返品をすることになんの痛痒も感じない。むしろ欠品して品切れになることを恐れるために、どうしても過剰に発注してしまふ」。これは丸善の社長になった小城武彦氏がよく引き合に出していたことだが、おそらく多くの書店人は同様の感覚を持ってきたと思う。

そういう意味で、設定した返品率を超えるとペナルティーを取られるという「パートナーズ契約」は、極端に言えば、書店人の発想を一八〇度転換することを迫るものだと考えるだろう。

こうした施策によって、書店側に仕入と返品に対する意識を作り、その中で市場の需要を測定して、そこに合わない送品量を絞り込んだというのが、今回の「送品コントロール」であり、いろいろ問題があるとはいえ、全体として

は、この方向性は現在の市場の現実を表しているとも言ってもよいと思う。しかも、この現実は何も日販だけのものではなく、他の取次も共通の課題を抱えている。

### 近刊情報の整備

書籍の流通・取引において、昨年最も前向きな動きとして評価できるのが、日本出版インフラセンター（JPO）による「近刊情報センター」の取り組みであろう。

将来刊行する書籍の書誌情報を、なるべく早く取次や書店に提供しようという試みだが、先に触れた市場の現実には、書店が対応するためには、今後なくてはならない情報になってくる可能性が高い。

これまで刊行予定情報は、各出版社がチラシを作ったり、中には結構先まで予定表を示す出版社もあるが、ほとんどの場合は、早くて一カ月、遅ければ見本と同時というのが一般的ではないだろうか。

最近はいく聞かうようになったが、こうした状況は新刊委

江戸幕府の大編年史を、初めて現代語訳化！  
現代語訳

## 徳川実紀

大石 学  
佐藤宏之 編  
小宮山敏和  
野口朋隆

## 家康公伝

全5巻刊行開始！

## 関ヶ原の勝利

(第1回) 2310円

人質から將軍へ。鳴くまで堪え忍んだ家康の成功譚。

### 歴史文化ライブラリー

309 祇園祭 祝祭の京都  
川嶋將生著 いかにして一大イベントになったのか？ 1785円

310 吉兆 湯木貞一  
末廣幸代著 料理の道 1785円  
ひたすら料理に打ち込んだ生涯。

311 話し言葉の日本史  
野村剛史著 日本人はどんな言葉で話していたのか？ 1785円

312 幕末の海防戦略  
上白石 実著 異国船を隔離せよ「開港」求める異国船。「海禁」守る幕府。海防とは何か！ 1785円

313 古代の都は  
どうつくられたか  
吉田 敏著 中国・日本・朝鮮・渤海  
長安をモデルとする都から中国統治  
思想の受容を探る。 1785円

314 藤原鎌足、  
時空をかける  
黒田 智著 変身と再生の日本史  
増幅する鎌足の歴史的イメージに  
迫るあらたな人物史。 1890円

## 吉川弘文館

〒113-0033・東京文京区本郷7-2-8  
電話03-3813-9151 / 価格5%税込  
<http://www.yoshikawa-k.co.jp/>

託の仕組みをもつ日本ぐらいにしかなく、多くの主要国で刊行情報は半年、早ければ一年以上前にカバーデザインなどともに取次や書店に示される。委託配本がない多くの国では、事前情報がなければ書店が発注することができず、発注がないと一冊も書店に並ばないことになるからだ。

この辺の事情については、電子書籍について書かれた大原ケイさんの『電子書籍大国アメリカ』（アスキー・メディアワークス）でも分かりやすく紹介されている。

### 書店からも近刊情報を求める動き

「近刊情報センター」は、当初、予約販売を行っているオンライン書店からの要望で企画がスタートしたと言うが、期を同じくして、二〇一〇年には紀伊國屋書店と大学生協書籍部も、近刊情報を収集するシステムを準備していたことから、業界全体の仕組みとして取り組まれるようになった。

大学生協書籍部の「最近では生産量、送品量が減っていて、小規模な店舗ではその学校の教師の著書といった、絶対に必要な専門書が一冊も配本されないこともある。これからは店舗で仕入れて売る体制を作りたい」という説明は、先に見てきた市場の現実と合わせてみると、今後、なぜ近刊情報が必要とされるのかを的確に物語っているように思う。

また、中小規模の書店からも、センターに期待する声が

出ている。当社で発行している別刷「文化通信BB」の対談で、中小書店協業会社NET21の副社長も務める恭文堂（東京・目黒区）・田中淳一郎社長は、「この仕組みは画期的。是非成功してもらいたい」と発言した。これまで取次や業界団体などによる取り組みには極めて辛口の評価を下してきた田中氏が、これほどまでに絶賛したのは驚かされた。

実はNET21は、今後の販売形態として三年前から一部商品の予約販売を実験的に行っており、実施に当たって様々な苦労をしてきたということもあるのだが、田中氏は「小さい書店は専門書を置いていないが、大手と同じ近刊情報が入ってくればビジネスチャンス」だと述べた。そこには、規模に左右される配本よりも、自分の才覚で仕入れて商売をしたいという姿勢が現れている。

また、田中氏によると、「学術書などは出版社の刊行情報が出る前に予約が結構多い」という。対象が狭く、著者のコミュニティが読者と近い専門領域の書籍は、読者が書店、下手をすれば出版社よりも早く今後出る企画のことを知っている。そういう読者に書店が応えるためには、確かに近刊情報が有効だということだ。

### 出版社は、仕入れて、売る、ことに対応できるか

そして、何よりも近刊情報は、書店が自ら仕入れるべき書籍を選ぶことを可能にする点が重要だ。

これまで取次や多くの中小書店が経営の基盤としてきた

## 20世紀を語る音楽

[全2巻]

ロス 20世紀クラシックの複雑な系譜を一望する、圧巻の音楽史=文化史。全米批評家協会賞。柿沼敏江訳①¥4200②¥3990

## スピノザの方法

國分功一郎 『デカルトの哲学原理』『エチカ』冒頭の精読から思考の筋道を内在的に解明。気鋭の哲学者の類なき論考。¥670

## 科学というプロフェッションの出現

ギリスビー 科学史論選

ギリスビー 科学と国家、コイレ、クーン、マートン論まで、科学史研究の黎明期を支えた碩学の業績集成。島尾永康訳 ¥3990

## 20世紀ユダヤ思想家 1

来るべきものの証人たち

ブーレッツ 哲学と宗教の知的葛藤を全3巻に再構成。1はコーエン、ローゼンツヴァイク、ベンヤミン。合田正人他訳 ¥7140

## 東アジア人文書100

20世紀後半の東アジアで読まれた本。中国・台湾・香港・韓国・日本の編集者が選ぶ初の案内書。東アジア出版人会議編 ¥2520

### [オンデマンド版復刊]

ベルンシュタイン 亀嶋庸一 ¥5040 / 自由と陶冶 関口正司 ¥7665 / ベンサムとコウルリッジ ミル ¥5040 / 評伝パーク 中野好之 ¥7140 / イエリネック対ブトミー 人権宣言論争 初宿正典 編訳 ¥4830 / ウェーバーとトレルチ 柳父関近 ¥5670 / エリノア・マルクス 都築忠七 ¥7140 / 経済から社会へ 松嶋敦茂 ¥5880 / 東西リスト論争 小林昇 ¥4410 / 経済学者 ラ・フォンテーヌ ボワソナード ¥2940 / 陸羯南 小山文雄 ¥5665 / 内村鑑三とラアトブルフ 野田良之 ¥5670 / 新渡戸稲造 松隈俊子 ¥6090

東京文京本郷 5丁目32-21 **みすず書房**

tel. 3814-0131 fax 3818-6435 (税込)

http://www.msz.co.jp

ポイントになる。

これは、なにも市場や書店におもねった本を作るとい

が入れてもらえるような本作り、宣伝、告知ができるのか、それが存在意義を示すための戦略でもある。

そうになったときに、出版社はそういった書店を選んで仕

取次、書店にとって大きなテーマだ。そのためには、取次段階でみると返品というロスを減らすこと、書店では売り上げ金額に対して適正な在庫金額と仕入れ金額を維持していくことが、これまで以上に問われることになる。

ことを意味しているのではなく(そんな本を作っていたらなおさら売れないだろうし、ブランドを毀損してしまう)、しっかり作り込んだ本を、適切な体裁にして、読者に届く販売戦略で市場に提供し、そして想定される読者に情報を伝えることで店頭での販売をサポートする、といった一連の流れについて、今まで以上に心を砕く必要があるということである。

これは、出版社にとっては今までも販売、宣伝のコストや手間が増えることを意味するが、仕入れ意識を持った書店はおそらく読者からみれば魅力的な店舗になるはずなので、そうした書店が増えることは、結果として出版社にとって、とてもありがたいことではないだろうか。

そう考えれば、厳しい環境の中でも、その厳しさも乗り越える努力によって、縮小均衡という流れであるとしても、必ずしも本の世界が貧しくなることはないように思う。

# 人文書の現在、書店の未来

芝 健太郎 (ヲタバ図書MEGA祇園中筋店)

## 人文書販売の雑感

本が売れないといわれて久しい。私が入社したのは二〇〇四年で、それ以前から厳しい厳しいと言われ続けています。そして、この二、三年は想像を超えるスピードで目に見えて厳しくなっています。二兆円は軽く超えていた書籍雑誌の販売も、一九九七年をピークに二〇〇九年にはついに二兆円を割り込んでしまいました。人文書も他でもなく、すぐには役に立たない書籍群が一番あたりをくらっている印象です。電子書籍の登場もあって厳しさを増す書店店頭ですが、以下は私の店で感じられる変化です。

### 低価格化

店頭で販売している実感として、かつて複数冊お買い上げいただいていたお客様が二冊になり、一冊になり、また判型もハードカバーから新書・文庫へと、コストパフォーマンス

マンスを優先されているように感じざるを得ません。ここ数ヶ月の当店の数字を見ても単価の低い文庫は伸びていますが、専門書の売上は苦戦しているというのが正直なところです。こと人文書においても、当店の売上をみると、単価が下がっているのが分かります。二〇〇六年、二〇〇七年の平均単価は約一七五〇円で、二〇〇八年もかろうじてこれをキープしていますが、昨年、今年は一六〇〇円台後半で推移しています。このことは何を意味しているのでしょうか。いままで専門書と教養書がバランスよく売っていたものが、専門書が売れず一般書、教養書など単価の低い本に流れている。一五〇〇円未満の本に流れ、本当の専門書が売れなくなってきたということかもしれません。

### ベストセラー偏重型

今年売れている人文書を見てみます。

マイケル・サンデル『これからの正義の話をしよう』  
早川書房

加藤陽子『それでも日本人は戦争を選んだ』朝日出版社  
『もう一度読む山川日本史、世界史』山川出版社

が抜きん出ていて、北山修『最後の授業』（みすず書房）、渡辺浩『日本政治思想史』（東京大学出版会）がスマッシュヒット。著者では内田樹、姜尚中、松岡正剛、この辺りはここ数年変化がないと思います。サンデルの『正義』は二四〇〇円で、これが売れていることは本心に心強いことです。しかしこの本から次につながらない。ロールズ、ウォルツァー、テイラーなどアメリカ現代リベラリズムが売れるという話はあまり耳にしません（後日出版されたロールズ『正義論』（紀伊國屋書店）が話題になっている。しかし地方での売上は芳しくないようである）。話題の本を買おうということで完結させてしまっている。スマッシュヒットが少なくなっている。ベストセラーにしか反応がなく、話題になっていることが唯一の購買動機になっているお客様が多いのではないか。このように思います。当然これは書店員である私達にも責任があるでしょう。

#### 人材の不足

売れていることが唯一の購買動機と述べましたが、販売側にも問題があります。書店経営が厳しくなる中で割らざるを得ないのは人件費であり、正社員です。ただでさえ人

が少ないのに人文書が好きで携わっている担当、いや好きでなくとも人文書のみを担当している方はどのくらいいらっしゃるでしょうか。人文書だけではなく書店の棚担当は一定期間、三年間ぐらい必要だと思いますが、一つのジャンルでじっくり学ぶ必要があります。いま、売れないジャンルに対して厳しい目が注がれます。人文書は時間もかかり、在庫も必要、担当は知識が必要で、気難しいお客様も多い……となんと時間も手間のかかるジャンルです。それを好きでやるにはまず自分自身が人文書の読者であることが近道になると思います。余裕のない書店のなかでどのくらいの書店員が本を読めているでしょうか。私自身、本を読む時間が減ってきている（買う冊数は変わっていないので、不思議ですが）。そして本を語り合う仲間が減っています。

#### それでは人文書をどう販売するか

今後私たちはどのように人文書を販売していくことができるのか、読者はどのような書店を望んでいるのかを考えてみたいと思います。

#### 書店の書棚をどうつくるか——関連性

後輩に繰り返し伝えていくことがあります。本のことはお客様一人にも勝てないよ、ということ。私たちはすべての本を読んで「この本いいですよ」とおすすめすることができません。一冊の本をじっくりと読み込んだお客



様、例えばフーコーの本を読み込んでいるお客様にフーコーのことで勝てないということです。もちろん自分が読んでいる本は別ですが。

私たちは本と本との関連性であればお客様と対等か、それ以上になることが出来ます。本読みのプロではなく本選びのプロとして。この本はどこに並べるか、どの本の隣に並べるか、です。毎日書店の中にいれば、この本とこの本は何がしかの「つながり」があると感じることがあります。一見関係のない本でもです。書店の棚は判型やキーワードで分類されているわけですが、それはそれぞれの書店の恣意的なものであり、お客様にとって分かりやすいだろうと思っただけで作られているものです。関連性をどこまで遠くへ飛ばすことが出来るかが書店のオリジナリティであり、面白さではないだろうかと思えます。丸善丸の内本店の松丸本舗や往来堂の文脈棚を持ち出すまでもなく、ふらっと書店に入ってきたお客様をわくわくさせるというのがリアル書店の強みだと思います。であれば書店の棚分類は時代とともに変化させていってよいはずですが、様々な切り口があつてよいと思えます。

#### お客様と会話する

お客様とどう会話するか、というのは実際に会話しても良いと思えますが、「棚」でどう会話するかということです。お客様の声を一番聞けるのがブックフェアです。どういうフェアの反応が良いか。うちの店にはどういう本が好きなの

お客様が多いのか、ということですが。

宮本常一。もう三〇年前に亡くなっている民俗学者ですが新刊が続いている不思議な人です。近年静かなブームが続いています。宮本常一は山口の周防大島の生まれで、彼の歩いた跡を日本地図に書けば地図は真っ赤になるだろうと言われた「歩く民俗学者」です。当店では何度か宮本常一のフェアをやりました。読めば分かりますが宮本は広島をとてもよく歩いています。広島の人であれば自分が子どもの頃の懐かしい光景がとても目に浮かぶはずですが、私自身は愛媛の出身ですが、『忘れられた日本人』を読んびっくりしました。私の住んでいた近所を宮本が歩いていたからです。そしてそこに描かれている百姓は、自分の祖母や地域の老人の姿やもの言いに他なりませんでした。彼らは物言わぬ人々ですが、間違いなく自分達とつながっている。人はだれしも自分のルーツを知りたいと思っただけです。そのルーツが紛れもなくそこにある。その宮本常一フェアは反響もあり、本来おいていなかった著作集や、関連本もおくようにしました。現在も著作集がよく回転していますが、これは数ある著作集の中でも珍しいのではないかと思います。

#### 地域文化との関わり

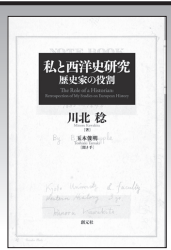
また、宮本常一関連の講演会や催しがあった際には積極的に参加させていただいています。二〇〇七年に宮本常一生誕一〇〇年で広島市内で合同フェアを実施いたしました

た。ジュンク堂書店さん、紀伊國屋書店さん、そして我々フタバ図書MEGA、TERA広島府中でも実施させていただけましたが、未来社さんなど宮本常一に関わりのある出版社さんの力をお借りして実施でき、どのくらい売上に貢献できたかは分かりませんが、地域の人文書読者にいくらかインパクトを与えることが出来たのではないかと思います。

現在、書店の現場は日々業務に終われ、本屋が本を読めないくらい余裕を失っているのではないかと思います。そんな時代だからこそ逆に外に出てみることも大事だと思います。イベントへの参加だけではなく、映画を見る、音楽を聴く、街に出る、人と会う、とにかく本以外のところから刺激を受けることも大事だと思います。

### これからの書店像

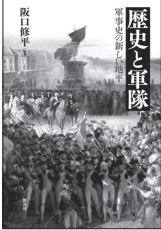
今後どのような書店が生き残るか。正直なところこれには誰にも分からないと思います。二〇一〇年は電子書籍元年



## 私と西洋史研究 歴史家の役割

川北稔 著／聞き手・玉木俊明  
西洋史学界を牽引してきた著者の50年にわたる研究生活を総括。「川北史学」の本質を余さず伝える、待望の個人研究史Ⅱ史学概論。

四六判上製 2625円



## 歴史と軍隊

## 歴史と軍隊 軍事史の新しい地平

阪口修平 編著  
軍隊と社会の相互作用に着目、徴兵・兵士の日常・戦闘・プロパガンダ・記憶など、従来になかった視点から軍事史研究の可能性を提示。

A5判上製 4410円

(本社)  
〒541-0047 大阪市中央区淡路町4-3-6  
Tel.06-6231-9010 Fax.06-6233-3111  
(東京支店)  
〒162-0825 東京都新宿区神楽坂4-3  
煉瓦塔ビル Tel.03-3269-1051

# 創元社

といわれ、書店の現場にいる限りでは多くの電子書籍関連書が出版され、日々そういうニュースを聞き、危機感も感じています。しかしながら電子書籍はまだまだ一般の読者にまでは広がっていないと思います。当面は紙媒体もなくならないだろうと思います。ただ、必ず書店の淘汰は進んでいくでしょうし、本の種類によっては衰退していくジャンルもあるかも知れません。

書店のお客様は読書人？ 消費者？

ここで内田樹氏の言葉を引きたいと思います。

電子書籍の、紙媒体に対する最大の弱点は、電子書籍は「書棚を空間的にかたちづくることができなない」ということです。(中略)さらに言えば、「蔵書を残す」ということができなない。「蔵書を残す」というのは、学者や文人にとってはほとんど「生き甲斐」といって差し支えありません。(内田樹「街場のメディア論」光文社新書)

内田氏は「書棚」というものが思っている以上に意味があると思います。あまりこういうことを言う人はいないのは、「読書人」と「消費者」を一緒に考えているからだと言います。腹が減ったのでアンパンを買うのと同じように、「その本が読みたかったのでその本を買った」というビジネスモデルでしか考えられていない、と。

本を読む人にとつては話はそれほど簡単ではありません。選書と配架におのれの知的アイデンティティがかかっていると思っっている人間にとつては「今読みたい本」と「当面読む気はないのだが、いずれは読まなければならぬ」と思っている本」と「読む気がないが読んだと思われた本」は等価なのだと言います。そして、

書物の根本的性格は「いつか読まれるべきものとして観念されている」という点に存します。(同)

つまり書物は「虚の需要」を基礎とし、電子書籍は「実重要を前提」としているというのです。紙の書籍ははじめから読む気がない本でも需要になりうるということですから、ファッションや見栄として買うということなのです。

そして、出版文化に向けこう提言します。

出版文化がまず照準すべき相手は消費者ではなく、読書人です。書物との深く複雑な欲望のうちに絡めとられて

いる人々、つまり「選書と配架にアイデンティティをかける人」の絶対数を増やすことである。(同)

そういう人を増やさなければならぬ、と。そのような集団を確保するために何をすべきなのか、僕たちはそこから考えなければならぬだろう、と内田氏は結論付けます。

書店は地域の文化の発信基地として有効な場所であると思います。どの街に行っても書店があるということは素晴らしいことだと思えます。人文書を扱うということは、地域の知識人を満足させる必要があります。それはささやかながら、でも確実に地域文化を担うということを意味します。売れないから人文書をまるごと無くすのではなく、自店のお客様に合わせたやり方で在庫の質、内容に強弱をつけることです。つまりファンを増やしていくことが人文書を扱う上でとても大事だと思えます。

人文書を読まれるお客様はまだまだ限られています。一つの書店、一つの場所だけではなく地域全体で人文書を盛り上げていくことも大事なことでないかと思えます。

# 出版営業＋マーケティング思考への途

土橋由明 (大阪大学出版会)

はじめに

「書籍の売上は、七〇パーセントが書籍自体の持つ力で決まり、残り三〇パーセントは営業活動で決まる。」

これは何らかの客観的根拠に基づいてはじき出した数字ではない。出版営業に身をおく私自身の直感的数値である。極端な話だが、市場でその内容的・機能的価値が認められた書籍は、特段力を入れて営業を行わなくても自然に売れて行く。逆にどんなに営業を行っても、市場でその内容的・機能的価値が評価されていないものは、その逆の結果となる。このように出版業には、製品(＝書籍)そのものの力が、売上の大きな要因を占めるといふ事実が存在している。

では、売上要因の残り三〇パーセントを占める我われの

出版営業とは一体何を行うべきなのだろうか。

今日まで出版営業は、書店・取次営業、直接販売など、出版活動の上で重要な役割を果たしてきたことは間違いないし、今後も継続していかなければならない。しかし、今の出版不況、電子出版などの台頭にも象徴されるように、もはや従来の方法や考え方ではどうしようもない壁にぶち当たり、業界自体のシステムそのものが変容しつつある中で、いわゆるセールス面以外のプラスアルファとして、どのような考えのもとで出版営業を行うべきなのかを問われつつある。

先般本誌『大学出版80号』にて、「関西の専門書市場とマーケティング戦略」という論考を書いた。その中でも言及したように、我われ出版社は、その「製造業的側面」において、様々な創意工夫を凝らし、「新たな知識」概念

「喜び」・「驚き」・「感動」などを顧客へ提供してきた。しかし一方で、「サービス業的側面」については、果たして顧客側が望むようなニーズを提供・吸収できてきたのだろうか。つまりは後者の「サービス業的側面」マーケティング思考」があまりにも欠落していたのではないか。いや、むしろその大部分を業界の商慣習や取次会社・書店に依存し、もはや思考停止状態になっていなかったであろうか。この点について、他業種と比べても、非常に遅れをとっているといわざるを得ない。今回はそのような課題を念頭に置きつつ、まずは出版業をこのマーケティング思考に基づいたフレームワークに当てはめる中で検証してみたい。

#### 出版業におけるマーケティング・ミックス（4P）

「マーケティング・ミックス」とは、その企業が掲げる目的を効果的に達成するために、様々なツールや要素をもっとも有効な形で組み合わせることをいう。アメリカのジエローム・マッカーシーは、マーケティングにおける4つの定義を、Product（製品）、Price（価格）、Place（流通）、Promotion（販売促進）として提唱した。

Product（製品）とは、製品やサービスを通じて得られるベネフィット全般のことを指し、そのデザインやブランドも含む。Price（価格）とは、企業の利益を左右する重要な要素であると同時に、消費者に製品価値を示す指標でもある。Place（流通）とは、商品価値を顧客に伝達する

ことであり、製品やサービスを消費者に届けるまでの経路自体を指す。Promotion（販売促進）とは、消費者に製品を認知してもらい、購入を促す販促活動・コミュニケーション活動を指す。

通常、効果的なマーケティングを行うために、この4Pを中心としたマーケティング・ミックスの要素を組み合わせ、統合的に企業活動を行わなければならない。

それでは出版業をこのフレームワークに当てはめてみよう。

#### （1）Product（製品）

4つのPの中でも、とくに出版業ではこの「Product」を中心とした「製品コンセプト」にて活動を行い、常に新しい製品やアイデアを創出・改良し市場に提供してきた。

新刊書・既刊書の重版・改訂、ブランディングや情報の信頼・保証などがそうである。その一方で、「良い製品を作りさえすれば、顧客はそれを購入する」という前提に立ってビジネスを進めるため、顧客が本心に望んでいること（製品の向こう側のニーズ）を見失い、近視眼的活動に陥りやすいという面もある。

#### （2）Price（価格）

一般的には、需要と供給のバランスや顧客心理などを加味して価格を決定することが多い。4つのPの中で最も柔軟な変数であるはずの価格であるが、出版業では再販制度のもと、小売価格を固定して販売を行っている。また価格

# 藤原書店

叢書『アナール 1929-2010』

歴史の対象と方法(全5巻) 叢刊

ル=ロウ=ラデュリ他監修 浜名優美=監訳  
□1 1929-1945 A=ヒルギエール編  
全体史、その80年。 7140円

「後藤新平とは何か——自治・公共・共生・平和」

## 世界認識

後藤新平 百年前に今日の日本の  
進路を呈示、解説=井上寿一/寄稿=  
小倉和夫・佐藤優・渡辺利夫 他 2940円

自由貿易は、民主主義を減ぼす

E・トッド 自由貿易を絶対視し、  
保護貿易を否定する“通念”と、各  
国エリート層の既得権益を徹底  
批判。 石崎晴己編 2940円

## 科学の科学

コレージュ・ド・フランス最終講義

P・ブルデュエ 「真理」の唯一性  
を懸視する学問的潮流に抗した、  
渾身の講義。 加藤晴久訳 3780円

モンゴル帝国から大清帝国へ

岡田英弘 北アジア全体の歴史を  
初めて構築した唯一の歴史学者  
の、初の本格的学術論文を集成し  
た、“岡田史学”の精髓。 8820円

## レッスンする人

語り下ろし自伝

竹内敏晴 著者が死の直前約三  
か月前に語り下ろした、その“から  
だ”の稀有な来歴。 2625円

徹底検証 21世紀の全技術

現代技術史研究会編 住居、食、医  
療、家電から材料、エネルギーなど  
“全技術”をトータルに展開。  
井野博満・佐伯康治=責任編集 3990円

月刊	機	B6変32頁 12月号 No.225
		E・トッド/劉曉波/ 金光仁三郎/小山勝 松島泰勝/姜克實 金城実/加藤晴久/尾形明子/山 崎陽子/粕谷一希/一海知義等。
年間購読料2000円(送料込) ◎見本 誌・ブックガイド呈 *表示価格税込		
〒162-0041 東京都新宿区早稲田鶴巻#523 振替 00160-4-17013 TEL.03-5272-0301 ホームページ http://www.fujiwara-shoten.co.jp/		

(3) Place (流通)

ここでは、どのような流通チャネルの設計・管理を行  
うのか、自社にとって最適な流通プロセスの構築が必要と  
される。出版業界では、直接販売などが増加傾向にあるも  
の、現状は「出版社」取次「書店」が最大流通チャネル  
となっている。出版社から複数の取次会社を経由し、そ  
の製品が全国の書店五万八〇〇〇店(CVS含む)で販売  
されるシステムは出版流通の強みである一方で、チャネル  
構成のメンバーは必ずしも出版社の意向に沿った形で製  
品を流通させることはなく、販売対象や場所などのコント  
ロールが効かない場合もある。また各社の利害関係が対立  
(コンフリクト)することも懸念される。

決定についても、コストにある一定の利益を上乗せした価  
格設定(コスト・プラス法)を採用している場合が多く、  
その基本要素である「需要」と「競争」の視点が抜け落ち  
ている場合が多い。

## (4) Promotion (販売促進)

新聞・雑誌・テレビなどへの広告宣伝、PR活動、書店  
での販売促進(例・ブックフェア等)など多岐にわたる。  
流通と同様に、出版社と取次会社・書店とが共同で行う  
場合も多いが、二段階チャネルゆえに、出版社側と取次  
会社・書店が行う広告やPR・人的販売などが上手く調和  
運動せず、その意図と状況が乖離して行われる場合もある。  
また顧客とのコミュニケーションも、販売窓口である書店  
を通じて行う一方向的な場合が多い。

このように、我われ出版業は「顧客満足の創出」という  
点では、自らが創り出す製品やアイデアを提供することで  
市場に訴求してきたが、それ以外の「流通」・「販促」とい  
う点では、良い意味でも悪い意味でも取次会社・書店など  
に依存してきている現状が見えてくる。

現在のように、流通システムやコミュニケーション手段  
が著しく変化する中で、ましてや、電子書籍というまった  
く新しい潮流の中で、旧来のシステムとは違った観点から、

もう一度足元を見直す必要があるだろう。特に Product 以外の 3 つの P についての考えや行動は、出版営業に身を置く者として、これからは必要になると確信している。それは、もっと幅広い視点から「出版営業」を捉えなおさなければならぬということでもある。まさに「言うは易く行うは難し」ではあるが、今後の出版営業の可能性を模索すべく小会ではマーケティング・ミックスの 4P のうち、「Price」と「Promotion」の観点から、次のような価格・販促キャンペーンを行った。

### 「Price」・「Promotion」への試み

【内容】二〇一一年一月刊行予定の『下痢、ストレスは腸にくる』（石蔵文信著）について、「Twitter アカウントを取得し、そのアカウントへのフォロー数に応じて発売価格を決定するキャンペーンを行った。発売予定価格一九〇〇円（税抜）から、フォローワー一〇〇人につき一%の値下げを行い、最大三〇〇〇人まで（三〇%引き）、期間は二〇一〇年九月三日から一〇月三十一日までの約二ヶ月間とした。本来は、購入を前提としたいいわゆる「共同購入」のような形で行うことがベストではあると考えるが、書籍という購入者によって満足度に差異が生じやすい商品であることから、あえて「ゆるいつながり」である「Twitter」を利用することとした。もちろん、著者やイラストレーターの全面的協力のもとに実施した。

【結果】二〇一〇年一〇月三十一日時点で、二七一人からフォローされ、発売価格が当初より二七%下がり、一三〇〇円（税抜）に決定。

今回の企画意図は、Price の点からは、需要に基づいた価格設定と価格弾力性の可能性についての模索である。

前述のとおり、「価格」とは製品の価値を表すとともに、消費者にとっては購買行為へのハードルとなっている一面もある。おそらく書籍内容の次に購買意欲を引き起こす要素であろうこの「価格」について、果たして従来どおりの価格設定（コスト・プラス法）で出版社側が提示する価格に顧客は満足し、その価値と引き換えに対価を支払っているのだろうかということ。価格弾力性については、宝島社が他社よりも雑誌の価格を下げ、売上増大に成功したように、書籍についても同じような効果があるのかどうかということ。Promotion の点からは、マスメディアや書店からの一方向的・限定的なコミュニケーションではなく、ソーシャルメディアを利用した双方向コミュニケーションを通じ、リレーションシップ・マーケティング構築の可能性はあるのだろうかということである。また発売と同時にさらなるプロモーションとして、本書を購入すれば、無料でもう一冊別の書籍（同著）を電子書籍（PDF 版）にて読むことができる特典をつける予定である。こちらでは、実際のダウンロード数などを計測し、無料提供という「Free」

戦略と電子書籍自体が持つ力についての可能性を探りたい。

本取り組みについて、まだ売上結果が出ていない状況ではあるが、ソーシャルメディアを使用した情報発信の方法、潜在市場の予測、その費用対効果の問題など、現時点である程度の解答を得ることができている。こうした経験は、従来の紙の出版活動だけでは決して得ることができない貴重な財産であり、そして、今後おそらく「ゼロベース」の発想で立ち向かわなければならぬ電子書籍市場への布石にも成り得ると考えている。もちろんこれが出版営業の未来形でも完成形でもなく、その試行は常に継続していかなければならない。

### 出版業の新たな4Pを求めて

前述したマーケティング・ミックスの4Pについては、いわば「売り手からの視点」であったが、現在では4Cという「顧客側からの視点」つまり「製品(Product) ↓ 顧客価値(Customer Value)」「価格(Price) ↓ 顧客コスト(Customer Cost)」「流通(Place) ↓ 利便性(Convenience)」「販促(Promotion) ↓ コミュニケーション(Communication)」で考えるのが主流である。

今後はこういったマーケティング思考を、今まで培ってきた出版営業の経験・スキルと融合させ、あらゆる場面で順応できるような形が必要となるはずである。今までの

マーケティングについて、あまり着手できていなかったことを言いかえれば、まだまだ出版営業には「のびしろ」があり、その売上要因が三〇パーセント（私的感覚）であるといえども、多くの企業が数パーセントの利益率を確保するのに苦心する中で、今後さらなる可能性が期待され、より重要な責務をおつていくことになるだろう。

最後に、これはもはや当て字であり、前述の4Pや4Cと同列には語ることができないが、今後出版業全体に求められる新たな「4P」について、次のように提案したい。

第一は、Product（展望）である。出版業に限らず、あらゆる業界でも流通改革が起り、製造業がサービスマーケティング化しつつある中で、企業は現在の置かれている立場と将来への展望を照らし合わせた上で、今後の進むべき方向を自らが予見し、準備をしていかなければならないだろう。

とくに近年、その変化のスピードは、各業界においても迅速かつ大胆に行われている。おそらくその変化の兆しは、同様に流通面から起こってくるであろう。我われは今の現実が、必ずしも一〇年先、二〇年先にもそこにあるとは限らないと予見しなければならぬ。

第二に、Publish（出版）の再定義である。今まで出版社は、主に「紙」という形で情報を公表してきたが、電子出版を目の前にして、その「出版」という定義をもう一度考え直す必要がある。我われのビジネスは、「紙」媒体だ



けを出版をしているのではないし、「電子」媒体も出版することでもない。その発信形態にとらわれず、「有益な情報を多くの人々に提供すること」である。その視点から眺望すれば、自ずと我われのすべきことが見えては来ないだろうか。

第三に、Professional（専門家）としての意識である。

誰もが困難な条件にとらわれることなく、自らの力で情報発信できるようになった現在、出版社としてのより高い編集・営業スキルが試されてくる。書き手と読者が直接繋がろうとする動きがある中で、出版社はこの顧客に対して、どのような製品やサービスを創造・提供し、またはプロとして必要とされ、その対価を得ることができるのかを真剣に考えなければならぬ。

そして最後のPは、やはり出版人としてのPassion（情熱）である。我われの先人が、「出版」という夢を追い求め、様々な問題にも取り組んで来られた根底には、「出版」へのこの上ない情熱があったからである。おそらくこれからは、かつて出版人の誰もが経験したことのない大変革を迎えるであろう。しかし、それを「危機」として捉えるのか、「チャンス」として受け入れるのか、今まさにその「情熱」が試されている。

「最高のサービスは出版社から」。これが私の抱く情熱である。少しずつではあるが、著者や読者にとっての最高のサービスを、出版社自身が提供できる環境が整いつつあ

る。私自身、この業界に身を投じて約一〇年になるが、現に今ほど来たるべき出版営業の可能性と未来について、胸を躍らせることはない。

# ナチュラリストの時間

大学出版部協会編 A5判/160頁/定価1680円

自然史へ誘う：博物誌から生態学、多様性生物学、ゲノムサイエンス、そして21世紀のナチュラリストを愉しむ

## I. Prologue of Natural History

- 第1話 自然を記録すること……斎藤靖二  
第2話 自然史と本……青木淳一  
第3話 日本のナチュラリスト……岩槻邦男  
コラム① 動物写真の世界

## II. History of Nature

- 第4話 ノーチラス号が遭遇した大ダコ……奥谷喬司  
第5話 マリー・ストープスの2つの顔：日本の植物化石研究事始め……矢島道子  
第6話 京都の語り部：深泥池……竹門康弘  
第7話 遺跡の土に秘められた情報……松井 章  
コラム② ききみみずきん  
第8話 遺体で動物学を埋め尽くす……遠藤秀紀  
第9話 ダーウィンと魚類学：人々と時代と魚たち……武藤文人  
第10話 日本の小鳥飼育文化と鳴き合わせ……小山幸子

## III. Diversity of Nature

- 第11話 サクラソウとマルハナバチ……鷺谷いつみ  
第12話 日本列島に人間と野生動物との共生の歴史をさぐる……湯本貴和  
第13話 琉球列島の自然史……太田英利  
第14話 マンボウと標本……松浦啓一  
第15話 分類学事始め：タクソン、タイプ、名前……馬渡駿輔  
コラム③ サルにノミはいない？ 幻の定説

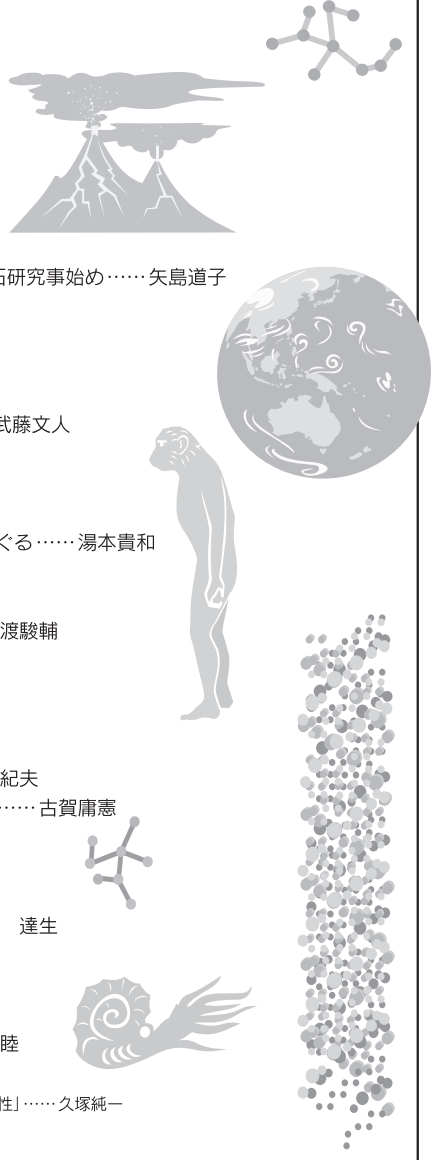
## IV. Story of Nature

- 第16話 クマ大量出没の謎……大井 徹  
第17話 ふしぎの国のアリ巢……丸山宗利  
第18話 現代によみがえったインカ時代の狩猟……山本紀夫  
第19話 子どもたちと自然教室：干潟で役立つ本や教材……古賀庸憲  
第20話 熱帯雨林の林冠アリ……市岡孝朗  
第21話 殿様の自然史……松岡明子  
第22話 幻のロバと男たち……木村李花子  
第23話 食の博物誌：多民族国家のハイ・ティエ……周 達生  
コラム④ アリジコクの自然史

## V. Epilogue of Natural History

- 第24話 遺伝子を通じた動物との対話……村山美穂  
第25話 ゲノム時代のナチュラリスト……西田 睦  
コラム⑤ 小・中学校図書館は今

特別寄稿：「具体的な人間の日常性」と抽象化された「専門性・科学性」……久塚純一  
自然史文献リスト



## 大学出版部ニュース

● 一二月三日、第二回理事会・部会・年末懇親会が開催された。理事会の後、特別に開かれた丸善デジタル化推進本部の電子書籍事業（電子書籍の流通販売・制作・著作権等）の説明会には、電子書籍に対する関心の高さを示し、所属部会に拘らず六十名を超える多くの会員が参加、説明に耳を傾けていた。iPadを始めとした新しい機器も投入され、電子書籍をとりまく環境も大きく変化して来ている。それぞれの出版部の事情はあるにしても、将来に向けて大いに参考になったのではないだろうか。

● 年が明けて一月二八日、三四回目となる「出版五団体合同新年会」が開催される。今年の当番は法経会。大学出版部協協会からは二一出版部二八名の参加が予定されている。「出版流通データブック2010」には厳しい数字が並んでいる。人文・社会科学系出版五団体と販売会社・書店が顔を合わせる恒例の新年会を機に、ウサギ年位は干支にあやかり、ぴよんと跳ねたいものだ。

## 北海道大学出版会

▼ 鈴木章著『Organoboranes in Organic Synthesis』（B5判変型・二九四〇円）二〇一〇年ノーベル化学賞を受賞した鈴木カツプリングについての基本論文集。触媒化学や材料化学分野に多大な影響を与えたクロスカップリング研究をまとめた。

▼ 邱麗珍著『日本の対中経済外交と稲山嘉寛―日中長期貿易取決めをめぐって』（A5判・四二〇〇円）日中長期貿易取決めの締結過程を、中心人物・稲山嘉寛の果たした役割に焦点を絞って分析。日米関係との連動、政府と民間の連携を明らかにする。

▼ 森永貴子著『イルクーツク商人とキヤフタ貿易―帝政ロシアにおけるユーラシア商業』（A5判・八四〇〇円）ギルド台帳や関税等に関する一次資料を含む膨大な史資料を基に詳細に分析した力作。

▼ 吉田文和・池田元美・深見正仁・藤井賢彦編著『持続可能な低炭素社会Ⅱ―基礎知識と足元からの地域づくり』（A5判・三六七五円）低炭素社会のあるべき姿と政策、グリーン・ニューディール政策の動向、日常生活や観光における低炭素社会のあり方などをわかりやすく紹介する。

## 弘前大学出版会

▼ 『東北発！地域に根ざした技術・家庭科の授業』大谷良光・日景弥生・長瀬清編著（B5判・三一頁・定価一九九五円）「地域」という視点で授業を編成した授業論と実践報告の先駆的な著書。日本の教育史において東北地方は生活に根ざした教育を財産として持つっており、技術・家庭科にも蓄積されているその財産を今回全国に発信した。また本書は一教科の書にとどまるのではなく、現代の知識・テキスト重視の学校カリキュラムのあり方に一石を投じたものである。

▼ 『成田彦栄氏考古・アイヌ民族資料図録』弘前大学人文学部附属亀ヶ岡文化研究センター編（A4判・一五〇頁・定価二九四〇円）長い間「幻のコレクション」として、一部の関係者だけが目にしてきた青森市の医師成田彦栄氏の収集品について実測図や拓本、展開写真を豊富に掲載。普段ガラスケース越しには知ることのできない、土器や土偶の作り方や細部の特徴が手に取るように分かる内容となっている。考古学に興味のある方は勿論、原始美術や工芸に関心のある方にも薦めたい。

## 東北大学出版会

▼古川柳藏著『環境制約下におけるイノベーション―力を持ち始めた環境ニーズ―』（A5判、一九四頁、二一〇〇円）  
人間活動の肥大化とともに、我々の活動に影響をおよぼす環境制約がいよいよ表面化してきた。それは、環境負荷を直接与えている生産者と生活者に対してだけでなく、イノベーション・プロセスに対しても影響を与えている。環境制約下において、どのようなプロセスで環境負荷を低減するイノベーションが起こり、どのようにそのプロセスが変化し始めているのかを検証する。

▼芳賀半次郎著『アダム・スミスの資本主義の精神から―理論経済学徒の思い―』（四六判、二二四頁、二九四〇円）  
アダム・スミスの思想から現代の市場社会を見た「第一章 いまの市場競争主義はほんとうのものだろうか」をはじめ、映画「独裁者」の一場面を題材に平和を考える「第二章 チャップリンの平和思想と日本国憲法」など、全四編のエッセイを収録。理論経済学者の著者ならではの視点・論点から、昨今の世情と人心を評する。

## 流通経済大学出版会

▼『障害者旅行の段階的發展』井上寛著（A5判上製・二四〇頁・三一五〇円）  
▼『企業間関係の構造―企業集団・系列・商社―』島田克美著（A5判上製・三六六頁・四二〇〇円）  
▼『社会学は面白い！―初めて社会学を学ぶ人へ―』流通経済大学社会学部入門書編集委員会編（B5判・二八〇頁・一五七五円）  
▼『貨幣と市場の経済思想史―イギリス近代経済思想の研究―』小池田富男著（A5判・三九二頁・定価四四一〇円）  
▼『農業立地変動論―農業立地と産地間競争の動態分析理論―』河野敏明著（A5判・六一〇頁・定価六三〇〇円）  
▼『改訂版』交通学の視点 生田保夫著（A5判・三三〇頁・定価三六七五円）  
▼『現代経営管理と経営戦略モデル』宮脇敏哉著（A5判・四〇六頁・三六七五円）  
▼『安価な石油に依存する文明の終焉―蘇る文明と社会―』若林宏明著（A5判・三八二頁・三五七〇円）

## 聖学院大学出版会

▼窪寺俊之編著『癒やしを求める魂の渇き―スピリチュアリティとは何か―』スピリチュアルケアを学ぶ1、A5判並製、定価一八九〇円）  
スピリチュアリティに対する関心は、精神世界をめぐって、すでに三十年以上前からはいまじり拡がっている。しかしスピリチュアルケアを学ぶシリーズが取り上げる課題は、これまでの精神世界をめぐる議論に接しながらもあくまでも終末期医療の現場の中から生まれる問いに答えることにある。ホスピス運動は、精神的、身体的な痛みとの緩和とともに、「霊的な痛み」をどう扱うかという課題も明らかにしている。

シリーズ第一巻にあたる本書では、「スピリチュアリティと心の援助」（窪寺俊之）、「病む人の魂に届く医療を求めて」（柏木哲夫）、「スピリチュアリティの現在とその意味」（島蘭進）、「悲嘆とスピリチュアルケア」（平山正実）、「スピリチュアルなものへの魂の叫び」（窪寺）という精神科医、宗教学者、スピリチュアルケアの専門家による論考によりこの課題を实践、理論の両面から追求している。

## 聖徳大学出版会

▼村井靖児著『音楽療法を語る―精神医学から見た音楽と心の関係―』（四六判・二八〇頁・二一〇〇円）音楽療法の第一人者である著者の、長年にわたる研究をベースにし、専門的でありながら一般の読者にもわかりやすい内容となっている。音楽療法は心身の病理に対してどのような効果をもたらすのか、音楽はなぜ心を癒すのか、心と音楽との関係を解き明かす。

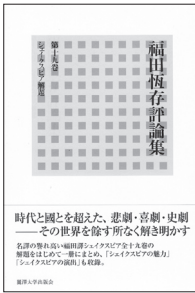
▼森彪著『医における癒し―人間関係の形成のなから―』（四六判・二八〇頁・二一〇〇円）本書では小児科医の医療現場での経験をもとに、病氣と闘った人たちの実例が紹介され、著者との交流が描かれている。純粹な医学書ではなく、高度に発達した現代医学において人間的交流の必要性を強く訴えかけている。

▼高橋大海監修・Jソロイスト歌唱「親子で楽しむ唱歌集」（音楽CD・三四〇〇円）文部唱歌をはじめ、「春が来た」、「小さい秋みつけた」など文化庁「親子で歌いつこう日本の歌百選」にも選定された二三曲を含む全四二曲が収録されている。

## 麗澤大学出版会

▼福田恆存著『福田恆存評論集 十九卷 シェイクスピア解題』（四六判・二九四〇円）時代と国を超えた、悲劇・喜劇・史劇―その世界を余す所なく解き明かす。名訳の誉れ高い福田訳シェイクスピア全十九巻の解題を初めて一冊にまとめ、「シェイクスピアの魅力」「シェイクスピア劇の演出」も収録。

▼ジェフリー・ハインズ著／阿曾村邦信・阿曾村智子訳『宗教と開発―対立か協力か』（四六判・五八八〇円）宗教の影響がますます深まっている二一世紀の発展途上世界に、「宗教」は何をなし得るのか？ 紛争、貧困、環境、保健、教育等、途上国が抱える諸問題についての豊富な事例研究に基づき、「宗教と開発」の全体像を理論的、包括的に論じた画期的な「国際開発研究」テキスト。



## 慶應義塾大学出版会

▼福澤諭吉事典編集委員会編『福澤諭吉事典』（A5判上製函入り・一六四頁・一四七〇〇円）

二〇一〇年に生誕一七五年を迎えた福澤諭吉。近代日本の先導者として、独立自尊の大道を歩んだその全身像がここに魅れる。

六六年間に及ぶ生涯、『学問のすゝめ』『文明論之概略』『福翁自伝』をはじめとする多くの著作、同時代の人びととの多彩な交流に関わる事項など七〇〇余項目や「ことば」と「漢詩」の解説を現在第一線で活躍する研究者たちが編纂、執筆。写真・墨跡・遺品・旅行地図などの豊富なカラー図版、新事実満載の詳細な年譜も掲載した。

今日まで積み重ねられてきた研究成果を集大成するとともに、今後の研究の手がかりとなる「時事新報」社説・漫言一覧、「書簡宛名一覧」などの資料も充実した大冊。

調べるだけでなく、読んで、見ても、楽しみながら、その足跡を辿ることができる。現代の課題に通じる、多くの知見に溢れた、画期的な個人事典。

## ケンブリッジ大学出版局

▼The New Cambridge History of Islam, 6 Volume Set  
(Hardback 9780521515368  
USD 1150)

「新ケンブリッジ版イスラムの歴史全6巻」は、7世紀アラビア半島における起源から、今日のグローバル化された世界における広範かつ多様な存在に至るまでのイスラムの発展をたどる、イスラム文明の包括的な歴史です。全6巻からなる本叢書は、ムスリム世界の人々の地理的分布と文化的・社会的・宗教的多様性を反映しています。全6巻のうち4巻はイスラムの歴史的發展をカバーし、2巻は地理的・年代的区分を超えて、社会的・政治的・経済的関係から芸術・文学・学問に至る多様なテーマを扱っています。イスラムの文化史・社会史・政治史・宗教史・経済史を包括し、権威ある学者と新進の研究者の国際的チームによって執筆された本シリーズは、学生・大学院生・研究者にとって今後イスラムの歴史研究のスタンダードな参考文献になるでしょう。

## 産業能率大学出版部

▼市川利夫著『やさしく学ぶ 経営分析入門』（一五七五円）

本書は、「決算書が読める力」と「経営状況を分析する力」に重点をおいて、たいへんわかりやすく解説しています。決算書などの経理数字になじみがない方でも、経営分析を勉強できる入門書としておすすしたい一冊です。

▼大嶋利佳・茶谷武志著『The Business Mail メール力』（一五七五円）

本書は、メールという身近なツールを通して、どんなときにも役立つコミュニケーション力やスキルを身につけたり、ビジネスシーンでのメールについて上手に使いこなす方法やコツを解説しています。

▼水口和彦著『時間管理コンサルタントが教える！情報整理達人7箇条』（一五七五円）

本書は、時間管理コンサルタントである著者が、仕事の中で情報整理の大切さについて解説しながら、さまざまな場面に応じた情報整理のしかたについて、具体的な方法でそのコツを伝授し、時間の有効活用を目指していきます。

## 専修大学出版局

▼香山リカ・上野千鶴子・嶋根克己『生き(くら)の時代』（新書判・七三三円）

八〇年代以降の社会変化はめまぐるしく、ネオリベ(新自由主義)や少子化現象が日本を根底から変えていったといわれている。二〇一〇年の現在、老齢の孤独死や働きざかりの自殺、失業、若年世代のうつ病など、社会変化が暗い形になって現れ、この国を覆っている。そうした状況を心理と社会の二つの視座から考え、「この国」の生きづらさを見つめ、両断する。学者、論客のほか、現役大学生らも熱い議論を戦わせている。

▼伊吹克己『歌舞伎と存在論——折口信夫芸能論考』（A5判・二九四〇円）

本書は芸能・演劇、特に歌舞伎を媒介にした「折口信夫論」である。著者は実存哲学以降の現代思想専門家であり、ハイデガーやニーチェ、ヘルダーリンなども折々にあらわれて論層を強固に展開している。内容は、折口信夫の歌舞伎論、折口信夫の芸能論、補論として「言語情調論をめぐって——折口信夫とハイデガー」を付す。

## 大正大学出版会

〔近刊〕

▼小澤憲珠監修、勝崎裕彦・林田康順編『浄土教の世界』（TU選書7・四六判・一九九五円）阿弥陀仏とその極楽浄土への信仰は、大きな潮流を形成している仏教思想である。日本には仏教伝来直後より伝えられ、鎌倉期に入つて法然・親鸞・一遍が出るに及んで盛んになり、現在でも多くの人々に信仰されている。本書はインド・中国・日本の浄土教の思想と歴史を概説する。とくに日本では、法然の門流を中心にその思想と歴史について平易に論述する。

▼中村敬著『小児科医が語る子育て支援』（TU選書8・四六判・一九九五円）小児科医である筆者が、実際に子育て支援の現場に参加し、取り組んできた支援活動と、並行して手がけてきた調査研究成果をふまえて、地域で活動している支援者、子育ての当事者のために書き下ろした書。子育て支援者必読の書。

〔既刊〕

▼中村敬著『子どもの健康と福祉―人間学を学ぶ人の子どもの科学』（A5判・一九八頁・一五七五円）

## 玉川大学出版部

▼ノエル・エントウイスル著／山口栄一訳『学生の理解を重視する大学授業』（B5判・三四六五円）専門や教科を深く理解し、自分自身で批判的に考える力を学生に身につけさせるには大学教師はどのように授業を進めればいいのか。教科の理論・体系によつて異なる教授法の具体例と留意点、よい授業のポイント、学生との接し方を詳しく解説する。

▼渡辺一雄編『教育政策入門3 大学の制度と機能』（A5判・三三六〇円）日本の大学制度の変遷をたどり、その特徴とそれを支える法制度を解説。また、大学教育をとりまく現状を分析。「大学全入」時代を迎える現代の「高大接続」の課題をみつめ、大学の果たす役割について考察する。「大学とは何か」を問う。

▼渡辺一雄編『教育政策入門4 大学の運営と展望』（A5判・二七三〇円）財政とマネジメントの観点から、国公私立それぞれの大学運営の体制を見る。変化する社会や国際環境の中で、大学が期待される意義や役割とは何かを、諸外国の事例を紹介しながら考える。また、二十一世紀の大学の課題を提起する。

## 中央大学出版部

▼廣岡守徳・西山昭彦・木本喜美子編著『あなたを輝かせるキャリアデザイン』（一九九五円）大手企業女性管理職、女性起業家、女性政治家等が大学で行った講義を収録。職業選択からのキャリア形成に至る人生ガイダンス。女性管理職やその候補者、女子学生と保護者、大学キャリア開発室、さらには女性研究者やキャリア研究者とその機関に勧める一冊。

▼細野助博著『コミュニティの政策デザイン』（二八三五円）地域主権と新しい公共を解明し、コミュニティを基本軸に専門知と実践知をバランス良く配した「公共政策の制度設計のあり方」を示唆するユニークな一冊。韓国でも翻訳刊行された前著『スマートコミュニティ』から構想十年。日本の今後に寄せる実践的メッセージ。

▼和田重司著『資本主義観の経済思想史』（四四一〇円）本書は、経済思想史上の著名な著者たちが、資本主義の歴史的性質をどう見てきたか、時代を追ってその変遷の軌跡を描きだすことによつて現代資本主義の進化の歴史的位位置と方向を知る手掛かりを探ろうとした力作。

## 東京大学出版会

▼小宮山宏・武内和彦・住明正・花木啓祐・三村信男編『サステイナビリティ学』（全五巻・各巻二五二〇円）

サステイナビリティ学は、細分化された学術分野の問題点を克服し、持続可能性に関わる複雑な問題を俯瞰的な立場から構造的に理解して問題解決に至るビジョンを示し、持続可能な社会の構築を目指す新しい学術体系である。日本では、東京大学など一三の大学・研究機関のネットワーク組織、サステイナビリティ学連携研究機構（IR3S）が中心的に活動を進めてきた。本シリーズはIR3Sの成果を踏まえ、サステイナビリティ学を体系的に論じた初めての叢書。

地球持続性を脅かす主要な問題と克服のための方策を解説する本シリーズは、サステイナビリティとその関連の研究を志す学生や関連分野の研究者、行政担当者、企業の経営戦略担当者に好適。

- ①サステイナビリティ学の創生
- ②気候変動と低炭素社会
- ③資源利用と循環型社会
- ④生態系と自然共生社会
- ⑤持続可能なアジアの展望

## 東京電機大学出版局

▼ワトソン著『遺伝子の分子生物学 第6版』（A4変・八八〇頁・一〇五〇〇円）

第5版の出版から4年、その間に分子生物学では三つの重要な変化があった。ゲノム配列決定の費用と影響、RNAの調節分子としての評価の飛躍的な高まり、ポストゲノム時代の生物学の将来を担うものとしてのシステム生物学の広がりである。第6版には、この三つの変化すべての影響が目に見える形となって現れている。

システム生物学という言葉の定義は不明瞭なままで、高度な情報処理方法論を反映したものと捉える人もいれば、生体系の数学的表現を反映したものと理解する人もいるが、今版ではこの目覚ましく成長を始めた分野のもつある一面、すなわち本書で取り上げた題材に対し大きく直接的な影響力を持つ遺伝子の調節回路網の全体像を検証する。



## 東京農業大学出版会

▼『オブレピーハの栽培―宇宙飛行士も食した機能性果樹』梅室英夫・淡輪・俊監修・編集

一九六一年ソ連の人工衛星ヴォストーク一号の有人飛行に食料としてオブレピーハが貢献した。オブレピーハは医薬と栄養食品として、その栽培についても徐々に研究が進んだ。編者らは日本でも栽培適地があるのでないかと期待し、オブレピーハの栽培を永年研究されているN.A.Mikhaylova博士の研究成果である「ロシア、西シベリア地方南部でのオブレピーハ栽培法改良普及」の翻訳本の出版の許可を得て、日本導入の手引書として出版を実現した。

平成二十二年十月（A5判・一五八頁・税込価格二九四〇円）

▼『タイ農業概観―持続的農業開発のモデルを求めて』小金丸梅夫著

タイ農業・農村とのお付き合いで多くの新しい発見や感動を得た著者が、これから農業分野で国際協力の舞台へ飛躍する若者の手ごころな参考書として書かれた。平成二十二年十月（A5判・三二〇頁・税込価格二九四〇円）



## 東京農工大学出版会

▼『日本の人口問題と社会的現実 第一巻 理論編 第二巻 モノグラフ篇』若林敬子著（A5判・第一巻・三六〇〇円 第二巻・三四〇〇円（本体価格））

本書は、今年退官する筆者が、四〇年間にわたって行ってきた日本農村社会学、地域人口社会学の視点からの研究・調査を大成したものである。

第一巻の理論編は、人口・農村・開発・意識・教育にまたがる分野を①少子・超高齢・人口減少社会を突き進む日本の将来②地域開発と人口移動、理由③社会開発とコミュニティ論④人口資質と年齢構造―教育、人口、学校統廃合、一八歳人口の縮小と外国人人口、高齢女性論⑤農村における学習、意識、農村生活、家・家族の変化―などテーマ別にまとめている。また第二巻のモノグラフ篇では、農山漁村の九地域について人口減少と限界集落に焦点を当ててまとめている。そのドラスチックな人口変動に地域崩壊していく厳しい実態が見て取れる。



## 法政大学出版局

▼J・デリダ／福本修訳『アーカイヴの病』（二四一五円）歴史家イエールシャルミの著作やフロイトのモーセ論などを通して、デリダがユダヤ性と精神分析、未来の問題を掘り下げた重要講演の記録。

▼W・ブラウン／向山恭一訳『寛容の帝国』（四五二五円）政治思想史、批判理論、フェミニズムなどの諸領域を横断しつつ、寛容という言葉に内在する、その規制的で生産的な権力作用を解剖する。

▼Z・パウマン／澤田眞治他訳『グローバリゼーション』（二七三〇円）移動をキー概念に、グローバル化が世界と人間生活の分極化や再階層化をもたらし、公共空間を消失させていくさまを描く。

▼R・コーワン／高橋雄造訳『お母さんは忙しくなるばかり』（三九九〇円）今でも強固に存在する「男女別領域」の教義が確立する過程を、社会史・技術史の視点から描いた家事労働論の基本文献。

▼平野恵著『温室』（三〇四五円）明治時代に欧米から輸入されたとの印象がある温室。その歴史を江戸時代の「むろ」にまで遡り、様式だけでなく、本草学や文学などから幅広く描き出す。

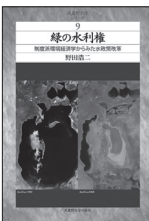
## 武蔵野大学出版会

▼ケネス・タナカ著『アメリカ仏教―仏教も変わる、アメリカも変わる―』（A5判・三四〇頁・二一〇〇円）

アメリカにおける仏教の拡大と浸透を伝える本書に、日米の各方面からの反響は大きい。「ブラクティス」による自己の変革や再生、寛容で受容的な教義や組織のあり方など、アメリカの仏教受容の様態は、本来の仏教の魅力をアメリカという鏡に映して日本の読者に示している。

▼野田浩二著『緑の水利権―制度派環境経済学からみた水政策改革―』（A5判・三〇六頁・二六二五円）

農業用水の過剰利用によって干上がったアラル海の衛星写真は、世界の人々に大きな衝撃をもたらした。美しく豊かな水と生命を地球上に保つためには、水利権制度の改革が不可欠となる。米・オレゴン州と英国の事例をもとに、水利権制度改革の方向性を明らかにする。



## 武蔵野美術大学出版局

▼佐藤淳一著「新版 電脳の教室 コンピュータリテラシー」(A5判・一八〇頁・予価一八九〇円)

二〇〇四年四月に刊行された本学通信教育課程「コンピュータリテラシー」教科書の改訂版である。初学者むけに平易に書かれた本書は、コンピュータとネットワークの全体像をとらえることに主眼をおき、一新された塚本なごみのイラストレーションは、巷の入門書と一線を画すムサビならではの魅力に溢れている。

「コンピュータと情報」「コンピュータのしくみ」「ネットワークの仕組み」「文書を作る」「電子メールを使う」「ウェブで情報収集」「ウェブサイトを作る」など、コンピュータの仕組みから文書の作り方、メール、ウェブサイトの利用法はもちろん、実際に自らがサイトを立ち上げるために必要な知識、さらにはネットワーク社会の問題点にいたるまで、社会とのつながりを考えながら基礎知識を得ることができるようになっている。「コンピュータは苦手」と思い込んでいる人にこそお勧めしたい。

## 明星大学出版部

▼「ここから始めよう 小学校英語―楽しい指導の第1歩―」

渡邊時夫・佐藤令子・粕谷恭子著 (B5判・一六四頁・二二六〇円)

平成23年度から小学校「外国語活動」として英語教育が始まる。英語によるコミュニケーション能力の素地とは何か、それを築くための望ましい指導法は何か。早期英語教育の研究、小学校英語教育の実践活動、英語教員養成の仕事に携わってきた3名による教育法・指導法入門。

▼「教員・教職志望者のための教育法の基礎―教育政策の法制・組織・財務―樋口修資著」

(A5判・三六八頁・二二二〇円)

法制・組織・財務に関する教育法規・判例を、今日的観点から15章に分けて解説。ミニマム・エッセンスを摘示・叙述して、学校、教育の場における様々な事象をどうとらえるべきか、その判断と対応を示唆する。脚注形式で【キーワード】欄を設け、具体的事例をコラムで紹介した。

▼「現代社会における教育制度と経営」

青木秀雄・岡本富郎著

(1月刊) A5判・二五六頁予定

## 関東学院大学出版会

▼星野彰男著「アダム・スミスの経済理論」(二五二〇円) 金本位制か管理通貨制かを問わず、実体経済を律する価値法則は万有引力の法則のように貫徹される。それは単なる物理的な循環法則でなく、分業・労働生産力(才能)改良による内生的成長論としてである。これが「国富論」の基本命題であった。



▼松田和憲著「現代日本の『宣教の神学』研究」(五七七五円) ポッシユの宣教のパラダイム転換モデルに依拠しつつ、日本文化との対論の中で、聖書神学的、歴史神学的な考察を踏まえ、文脈化神学の線上に立って、日本の二一世紀における新しい宣教の視座を呈示する。



## 東海大学出版会

▼『東海大学自然科学叢書④…新版水族館学―水族館の発展に期待をこめて』鈴木克美・西源次郎著（A5判・五二〇頁 定価本体六三〇〇円＋税）前著『水族館学』の新版。全体の構成も大幅に変え、前書にはなかった博物館学との連携に軸足を移し、大学の学芸員課程で履修される博物館カリキュラムに準じて一新されている。新見も多く追加されている。

▼『愉快な仲間と学ぶメンタルヘルス講座―ストレスチェックと対処法』高林健示・高橋為生・長谷川麻弓著（A5変判・一三〇頁・定価本体一八〇〇円＋税）自然や社会環境が急速に変化しストレスがどんどん増加して行く中でいかに「こころの健康（メンタルヘルス）」に向き合うべきか、10種類の動物キャラクターと3人の講師たちがわかりやすく解説する。

▼『建築手帖』今村壽博・十亀昭人著（新書判・六四頁・定価本体八〇〇円＋税）建築のコンセプト、図面、模型、プレゼンテーションなどの建築を学ぶうえで基礎知識を、実例を織り交ぜながら丁寧に解説する。建築学生のみならず、建築に興味ある全ての人の必携「手帖」。

## 名古屋大学出版会

▼コラーツイイ著 村上信一郎監訳 橋本勝雄訳『イタリア二〇世紀史―熱狂と恐怖と希望の一〇〇年―』（八四〇〇円）知の空白をうめる最も信頼できる現代史。

▼荒川正晴著『ユーラシアの交通・交易と唐帝国』（九九七五円）唐帝国がユーラシア東部に構築した交通・交易体制を解明し、モノやカネの流通を考察する。

▼清水耕一著『労働時間の政治経済学―フランスにおけるワークシェアリングの試み―』（六九三〇円）労働時間短縮による雇用創出は成功したのか。

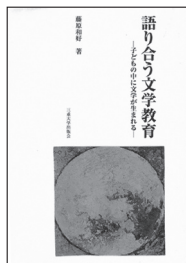
▼デイリー&エリソン著 藤岡伸子／谷口義則／宗宮弘明訳『生態系サービスという挑戦―市場を使って自然を守る―』（三五七〇円）エコロジーをエコノミーに組み込む新たな試み。

▼フー著 小林身哉／八谷寛／小林邦彦監訳『肥満の疫学』（九九七五円）肥満の原因や肥満が関わる疾患について現在の知見を集約した待望の書。

▼ストロング他編 熊澤孝朗監訳『痛み学―臨牀のためのテキスト―』（六九三〇円）『痛み』に取り組みための国際的テキストの邦訳新版。

## 三重大学出版会

▼『語り合う文学教育―子どもの中に文学は生まれる―』藤原和好著（A5判・二二九頁・定価二一〇〇円）二つの「お手紙」／教師にとつての語り合う文学教育／文学作品との出会い／虚構との出会い／「感動は教えられない」か？／感じる力を育てる／状況を読む／説明文の指導



▼『明治・大正の日中文化論』藤田昌志著（A5判・三〇八頁・定価二四〇〇円）まえがき／魯迅と厨川白村／日中近代文学比較論／岡倉天心の中国論・日本論／志賀重昂・三宅雪嶺の日本論・中国論／内藤湖南の日本論・中国論／周作人の日本論／あとがき

▼第九回日本修士論文賞の募集開始、詳しくは三重大学出版会HP。

## 京都大学学術出版会

▼『キノコ・カビの研究史』G・C・エ  
インズワース 著/小川 眞 訳(四二〇  
〇円) 菌類という奇妙な形と生態に、古  
来さまざまな人びとが惹かれ研究を試み  
た。有史以来の人と菌類のかかわりが、  
この一冊に集約されている。わが国では  
菌学はまだ「未科学」の状態にあるが、  
自然研究を志す若い世代に遺したい古典  
的研究の翻訳。本邦初訳。

▼『乳酸菌とビフィズス菌のサイエンス』  
日本乳酸菌学会 編(八四〇〇円) 古代  
から多彩に利用され、研究も膨大に蓄積  
されている乳酸菌。それだけに、正しい  
知識・詳しい知見を俯瞰することが難し  
い。分類・生理といった基礎から多様な  
利用方法、操作技術までを一冊に詳説し  
た最新の総説書。

▼『東ドイツ農村の社会史』足立芳宏  
著(五〇四〇円) 二十世紀世界を大きく  
規定した「社会主義」とは何だったか―  
第二次大戦後東ドイツでの二十年間の土  
地改革と集団化を農民村落の生活に即し  
てミクロ史的に分析し、今日に到る農業  
社会形成を歴史的に跡づける。日本の戦  
後歴史学の空白に新たな光を当てる試み。

## 大阪経済法科大学出版部

▼『未来を発信する八尾・環山楼市民塾  
2009』

(環山楼市民塾運営実行委員会編・一五  
七五円) 一月刊。

現代版環山楼市民塾は、民産学官から  
なる実行委員会を設置し、二〇〇八年一  
〇月から経済問題、法律問題、環境問題、  
まちづくり、情報化等の講座を開催して  
きました。本書はこの環山楼市民塾の二  
〇〇八年度の講演記録集である。

特別寄稿 世界経済と日本経済を俯瞰  
する―オールド・ノーマルからニュー・  
ノーマルへ―(本間正明) / 第一章 文  
化遺産学のためのしき(高橋隆博) / 第二  
章 ごみ問題の経済評価とまちづくり  
(坂田裕輔) / 第三章 ものづくりと産  
業組織論(箱田昌平) / 第四章 国際的  
労働力移動(村下 博) / 第五章 IT  
の進化と現代経営の基本問題(能塚正義)  
/ 第六章 日本における特許法の歴史の  
あらまし(岩村 等) / 第七章 活性化  
する東北アジアの現状と将来の展望(藤  
本和貴夫)

## 大阪大学出版会

▼適塾記念会緒方洪庵全集編集委員会編  
『緒方洪庵全集 第一巻・第二巻 扶氏  
経験遺訓(上)・(下)』(各巻A5判・一

〇五〇〇円) 洪庵が訳出した扶氏経験遺  
訓を翻刻。▼ビスフォスフォネート関連  
顎骨壊死検討委員会編『ビスフォスフォ  
ネートの有用性と顎骨壊死』(四六判・  
二一〇〇円) B P 製剤投薬中の歯科治療  
で合併症として発症する顎骨壊死につい  
ての見解。▼ジュリボー・エルタザロフ  
著『ソワイエト後の中央アジア―文化、  
歴史、言語の諸問題』(B5変・三九九  
〇円) ソワイエト連邦崩壊後の中央アジ  
ア全体の地政と言語、民族、文化。▼阿  
部武司・沢井実著『大阪大学総合学術博  
物館叢書(6) 東洋のマンチェスターか  
ら大大阪へ―経済でたどる近代大阪のあ  
ゆみ』(A4判・二二〇五円) 全国一の  
工業都市を自負するに至った近代大阪の  
発展と衰退。▼石蔵文信著『下痢、スト  
レスは腸にくる』(四六判・一三六五円)  
一月中旬発売予定。安倍元首相の手記や  
男性更年期診療の経験からストレスと腸  
の関連を解説。

## 関西大学出版部

- ▼萩野脩二著『中国現代文学論考』（A5判・三六七五円）中国の文化大革命の時期、中国人を収容し改造することを目的とした五七幹部学校の実態を解明。問題を考察するとともに、次世代の知識人（莫言、高行健、余華など）の活躍について論じる。
- ▼角田猛之著『戦後日本の（法文化の探求）——法文化学構築にむけて——』（A5判・三一五〇円）戦後日本の法文化の探求をリードした代表的学者たる恒藤、矢崎、千葉、安田の学説を批判的に検討。さらに法文化を根本的に規定する最も重要な要因の一つである宗教を巡る日本の法文化を、欧米との比較を交えつつ検討する。
- ▼野間晴雄編著『文化システムの磁場——16〜20世紀アジアの交流史——』（A5判・三三六〇円）。アジアの一六世紀から近代までを視野に入れたモノ、ひと、出来事が産み出す場の交流史に関する歴史学・地理学者二名の研究論集。外世界であるヨーロッパ・アフリカ・アラブとの邂逅・文化接触と日本を含めたアジア内部の仕組みを考察する。

## 関西学院大学出版会

新刊

- ▼向井孝史編著『人間の光と闇——キリスト教の視点から』（A5並製・二二六頁・定価二二〇〇円）人間の肉奥深く存在する根源的な問題を「深淵」という言葉で表し、それとの対比の中で「尊厳」を考察する。
- ▼佐野茂著『一家団欒と家庭の教育力——聞き書き調査にみる戦前・戦後の変容——』（A5上製・一五八頁・定価二九四〇円）
- ▼ジョージ・アンダーソン著／新川敏光監訳『連邦制入門』（四六並製・一八四頁・定価一六八〇円）「カナダ出版賞」受賞図書。国と地方はどうあるべきか？連邦制諸国の経験から学ぶ。「翻訳者による丁寧な解説付き」
- ▼片岡優子著『原胤昭の研究——生涯と事業——』（A5上製・四〇八頁・定価七一四〇円）「更生保護の父」と言われ、生涯をかけて「監獄改良事業」に取り組んだ原胤昭の総合的研究。
- ▼梶浦昭友・西村智・根岸紳・福井幸男編著『生産性向上と雇用問題——生産性三原則へのアプローチ』（A5並製・二〇八頁・定価一九九五円）

## 九州大学出版会

- ▼堤研二『人口減少・高齢社会と生活環境——山間地域とソーシャル・キャピタルの事例に学ぶ』（A5判・五二五〇円）人々の「結びつき」により地域社会は再生する。「社会関係資本」の再定義により、地域再生の解決策を提唱する。
- ▼間ふさ子『中国南方話劇運動研究（1891—1949）』（A5判・六五一〇円）中国南方（華南・東南・台湾）の方言話劇運動に着目して、その誕生と発展過程を概観し、近現代中国研究に新たな地平を切り拓く。
- ▼加藤久子『数の泉——数の成り立ちから実数論へ』（A5判・一六八〇円）分数、整数、有理数の成り立ちから始まる実数論。予備知識なく読める数学への啓蒙書。
- ▼片岡啓『ミーマンサー研究序説（B5判・九八七〇円）』伝統パラモン数学の最難関たる聖典解釈学ミーマンサーの本質を解き明かす本格的な研究書。
- ▼実積寿也『通信産業の経済学』（A5判・三二五〇円）通信産業の特徴、企業行動に及ぼす影響、政府のとるべき政策など、通信ビジネスをめぐる経済理論をミクロ経済学の観点から平易に解説。

# 一般社団法人大学出版部協会 加盟出版部一覧

## 北海道大学出版会

〒060-0809 札幌市北区北9条西8丁目 北海道大学構内  
TEL 011-747-2308 FAX 011-736-8605

## 弘前大学出版会

〒036-8560 弘前市文京町1番地 弘前大学附属図書館内  
TEL 0172-39-3168 FAX 0172-39-3171

## 東北大学出版会

〒980-8577 仙台市青葉区片平2-1-1 東北大学構内  
TEL 022-214-2777 FAX 022-214-2778

## 流通経済大学出版会

〒301-8555 龍ヶ崎市平畑120  
TEL 0297-64-0001 FAX 0297-60-1165

## 聖学院大学出版会

〒362-8585 上尾市戸崎1-1  
TEL 048-725-9801 FAX 048-725-0324

## 聖徳大学出版会

〒271-8555 松戸市岩瀬550  
TEL 047-365-1111 FAX 047-363-1401

## 麗澤大学出版会

〒277-8686 柏市光ヶ丘2-1-1  
TEL 04-7173-3320 FAX 04-7173-3154

## 慶應義塾大学出版会

〒108-8346 港区三田2-19-30  
TEL 03-3451-3168 FAX 03-3451-3124

## ケンブリッジ大学出版局

〒140-0002 品川区東品川1-32-5  
TEL 03-5479-7265 FAX 03-5479-8277

## 産業能率大学出版部

〒100-0005 千代田区丸の内1-7-12 サビアタワー9階  
TEL 03-6266-2400 FAX 03-3211-1400

## 専修大学出版局

〒214-0033 川崎市多摩区東三田2-1-2 専修大学購買会別館2階  
TEL 044-911-7179 FAX 044-911-1382

## 大正大学出版会

〒170-8470 豊島区西巢鴨3-20-1  
TEL 03-5394-3026 FAX 03-5394-3038

## 玉川大学出版部

〒194-8610 町田市玉川学園6-1-1  
TEL 042-739-8935 FAX 042-739-8940

## 中央大学出版部

〒192-0393 八王子市東中野742-1  
TEL 042-674-2351 FAX 042-674-2354

## 東京大学出版会

〒113-8654 文京区本郷7-3-1 東京大学構内  
TEL 03-3811-8814 FAX 03-3812-6958

## 東京電機大学出版局

〒101-8457 千代田区神田錦町2-2  
TEL 03-5280-3433 FAX 03-5280-3563

## 東京農業大学出版会

〒156-8502 世田谷区桜丘1-1-1  
TEL 03-5477-2666 FAX 03-5477-2747

## 東京農工大学出版会

〒183-8509 府中市幸町3-5-8 東京農工大学内  
TEL 0423-67-6700 FAX 0423-67-6700

## 法政大学出版局

〒102-0073 千代田区九段北3-2-7 法政大学一口坂校舎内  
TEL 03-5214-5540 FAX 03-5214-5542

## 武蔵野大学出版会

〒202-8585 西東京市新町1-1-20 武蔵野大学構内  
TEL 042-468-3003 FAX 042-468-3004

## 武蔵野美術大学出版局

〒180-8566 武蔵野市吉祥寺東町3-3-7  
TEL 0422-23-0810 FAX 0422-22-8309

## 明星大学出版部

〒191-8506 日野市程久保2-1-1  
TEL 042-591-9979 FAX 042-593-0192

## 関東学院大学出版会

〒236-8501 横浜市金沢区六浦東1-50-1  
TEL 045-786-7164 FAX 045-786-9898

## 東海大学出版会

〒257-0003 秦野市南矢名3-10-35 東海大学同窓会館3階  
TEL 0463-79-3921 FAX 0463-69-5087

## 名古屋大学出版会

〒464-0814 名古屋千種区不老町1 名古屋大学構内  
TEL 052-781-5027 FAX 052-781-0697

## 三重大学出版会

〒514-8507 津市栗真町屋町1577 三重大学図書館3階  
TEL 059-232-1356 FAX 059-232-1356

## 京都大学学術出版会

〒606-8315 京都市左京区吉田近衛町69番地 京大吉田南構内  
TEL 075-761-6182 FAX 075-761-6190

## 大阪経済法科大学出版部

〒581-8511 八尾市楽音寺6-10  
TEL 072-941-8211 FAX 072-941-9979

## 大阪大学出版会

〒565-0871 吹田市山田丘2-7 大阪大学ウエストフロント  
TEL 06-6877-1614 FAX 06-6877-1617

## 関西大学出版部

〒564-8680 吹田市山手町3-3-35  
TEL 06-6368-0238 FAX 06-6389-5162

## 関西学院大学出版会

〒662-0891 西宮市上ヶ原一番町1-155  
TEL 0798-53-5233 FAX 0798-53-9592

## 九州大学出版会

〒812-0053 福岡市東区箱崎7-1-146 九州大学構内  
TEL 092-641-0515 FAX 092-641-0172